

令和7年

消防統計



正式名称が決定した「行田タワー」

行田市消防本部

はじめに

この統計書は、行田市内の消防現勢を集録したもので、消防事情を広く一般に紹介するとともに将来の参考に資するため編集したものです。

なお、この統計は令和7年4月1日現在をもって作成し、災害発生統計事項等については暦年により、その他の業務関係等については会計年度をもって収録いたしましたことを申し添えます。

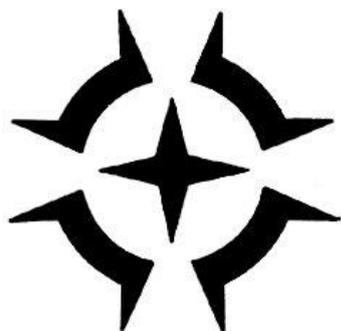
令和7年9月

行田市消防本部



行田市民憲章

(昭和50年11月3日制定)



わたくしたちは 埼玉県名発祥の地恵まれた自然と
輝かしい歴史を持つ行田の市民であることに
誇りと責任を感じます
わたくしたちは みんなのしあわせを願って
さらに明るく豊かな住みよい郷土をつくることを誓い
この憲章を定めます

自然を生かし 美しいまちをつくります

郷土を愛し 文化のまちをつくります

仕事に誇りをもち 豊かなまちをつくります

思いやりの心で 住みよいまちをつくります

きまりを守り 明るいまちをつくります



市の木「イチョウ」



市の花「キク」



市の花「古代蓮」

昭和49年に、市制施行25周年を記念し、市内に自生しあるいは栽培されている木及び花のうちから、市民投票により、「イチョウ」を市の木に、「キク」を市の花に指定しました。また、平成21年には、市制施行60周年を記念して、市民アンケート調査等を基に、「古代蓮」を市の花に追加指定しました。

目 次

はじめに

市民憲章

行田市というところ 1

行田市消防のあゆみ 2

管内情勢・予算・組織

行田市の位置 1 5

行田市全図 1 6

消防機関の組織 1 7

消防庁舎概要 1 8

消防本部・消防署の事務分掌 2 0

予算 2 3

1. 市予算に占める消防予算

2. 消防予算の費目別額

3. 人口・世帯当り消防費

消防職員数 2 4

消防職員の階級別年齢状況

消防職員の階級別勤続年数

消防職員の研修状況 2 5

消防施設及び機械

消防本部・消防署の保有車両一覧 2 6

無線施設配置一覧 2 8

局別無線施設一覧 3 1

消防水利現有数 3 2

街角消火器設置数

予防

防火対象物数（消防用設備等の設置が義務であるもの） 3 3

用途別建築確認同意状況 3 4

消防用設備等着工届出状況

危険物施設区分割合表 3 5

危険物施設の推移

危険物の種類別施設数 3 6

危険物の貯蔵・取扱い数量別施設数

危険物関係事務処理状況 3 7

火災

火災の概要	3 8
月別火災状況	
出火原因別火災発生状況	3 9
建物火災の概要	4 0
月別建物火災状況	
時間別火災発生状況	4 1
曜日別火災発生状況	4 2
時間・曜日別火災発生状況	4 3
建物用途別火災発生状況	4 4
地区別火災発生状況	4 5
月別覚知状況	4 6
災害情報案内利用状況	4 7
月別 119 番通報の受信状況	4 8

救急・救助

救急

月別活動状況	4 9
過去 10 年の推移	5 0
署別出場状況	5 1
活動詳細	5 2
病院外心肺停止傷病者に対する活動	6 0
心肺機能停止前の重度傷病者に対する主な救急救命処置実施件数	6 2
連携事案（1 事案に対する複数車両出動）の状況	6 3
救命講習と救急指導の状況	

救助

事故種別出動状況	6 4
月別出動状況	6 5
曜日別出動状況	6 6
時間別出動状況	6 7
署別管内出動状況	6 8
地区別出動状況	6 9
覚知別出動状況	7 0
事故種別発生場所	7 1
事故種別活動件数及び救助人員	
事故種別救助人員内訳	
事故種別出動人員	7 2
事故種別活動人員	
事故種別出動車両	7 3
事故種別活動車両	
救助資機材使用状況	7 4
事故種別他機関活動状況	

救助隊員の訓練実施状況	7 5
応援出動状況	
救助活動状況の年間推移	7 6

消防団・水防

消防団の保有車両一覧	7 7
消防団庁舎概要	7 8
消防団出動区分表	7 9
消防団員の勤続年数	8 0
消防団員の年齢	
団員報酬額	
荒川北縁水防事務組合所属分団	8 1
行田市防災会議（水防対策）所属分団	
利根川・荒川危険水位標	

気象

月別気象情報Ⅰ・月別気象情報Ⅱ	8 2
月別気象情報発表日数状況	8 3

協力団体

行田市防火安全協会	8 4
行田市自衛消防団	8 5
幼年消防クラブ	8 6

附録

歴代の消防長・消防団長	8 7
消防相互応援協定の締結状況	8 9
消防広報	9 0

行田市というところ

私たちのまち「行田市」は、昭和24年5月3日、県下6番目の市として誕生しました。

行田の地名のいわれは、1220年代に現在の内行田あたりの湿田を田(業田)として、そこに行田兵衛尉が館をつくり、行田本宿といったのが初めといわれています。

行田市は関東平野の中ほどに位置し、北は利根川を境として群馬県に接し、南端には荒川を擁し、自然の清流に囲まれた肥沃な大地と輝かしい歴史を持つ緑豊かな文化都市です。

市では、行田市基本構想において、「新しい行田の好循環」を加速させるため、3つの重点施策と6つの施策分野別に、それぞれの方向性や事業を位置付けています。

重点政策 1. 子育て支援の強化と教育の充実

重点施策 2. 開発の促進と雇用の創出

重点施策 3. 交通インフラの整備

施策 1. 健康づくりと福祉の充実

施策 2. 市民の安全・安心の確保

施策 3. 地域コミュニティと市民活動の推進

施策 4. 持続可能な都市づくり

施策 5. 快適な住環境の整備

施策 6. 行政運営の効率化

埼玉県名発祥の地であり、風土記の丘として整備されている国指定史跡の「埼玉古墳群」をはじめ、市内には数多くの古墳が残されています。

昭和53年には、埼玉古墳群中のひとつである稲荷山古墳から出土した鉄剣から115の金錯文字が発見され、古代史の謎を解く手掛かりとして一躍脚光を浴びました。

また、中世に入って成田顕泰により築かれた忍城は、難攻不落を誇る城として長く関東七名城のひとつに数えられました。行田市は忍城とともに栄え、その後も「足袋の行田」として全国にその名をはせました。

しかし、戦後の服装文化の変遷により市内の基幹産業も足袋から被服・靴下の生産に主力が移り、工業団地の造成や国鉄行田駅(現JR行田駅)の開設により都市化が急速に進み、文化都市へと大きい飛躍と躍進を続けています。

近年では、日本遺産認定や伝統的工芸品への指定、製造用具等の重要有形民俗文化財への指定など、足袋産業の歴史や技術が見直されています。埼玉古墳群も県内初の特別史跡に指定されるなど、古代から現代までの歴史や文化に注目が集まっています。

行田市消防のあゆみ

年月	概要	主な出来事
昭和25年		
4月	消防本部設置	行田市消防本部を大字忍198番地に設置し初代消防長に岡村正男氏就任、職員消防長以下4名
7月	消防団条例制定 消防団長就任	行田市消防団条例(条例第16号)を制定し、団員220名 初代消防団長に井桁幸造氏
昭和26年		
11月	消防団長就任	第2代消防団長に柳瀬福太郎氏
昭和28年		
12月	消防署車両	水槽付消防ポンプ自動車(いすゞTX80型A2級2, 500ℓ)を購入し、消防本部に配備
昭和29年		
1月	消防署設置	行田市消防署を消防本部内に設置し、職員12名
3月	消防団の編成	荒木、須加、北河原村が行田市に合併し、荒木の消防団を第7分団、須加の消防団を第8分団、北河原の消防団を第9分団と命名
7月	団員定数の改正	埼玉村が行田市に合併し、消防団を第10分団と命名 消防団員の定数を584名
昭和30年		
7月	消防団の編成	星宮村が行田市に合併し、消防団を第11分団と命名
9月	〃	太井村大字棚田及び大字門井の区域が行田市に合併し、この区域の消防団を第12分団と命名
昭和31年		
2月	消防長就任	第2代消防長に菅波義造氏(兼消防署長)
	消防団長就任	第3代消防団長に清水貞一氏
4月	消防団の編成	吹上町大字下忍、大字堤根及び大字樋上の区域が行田市に合併し、この区域の消防団を第13分団と命名
11月	協力団体設置 消防団車両	行田市危険物安全協会が発足 消防ポンプ自動車(いすゞTX231A2級)を購入し、第2分団(佐間地区)に配備
昭和32年		
3月	消防団の編成	太田村が行田市に合併し、消防団を第14分団と命名
4月	消防団車両	消防ポンプ自動車(いすゞTX231A2級)を購入し、第3分団(忍地区)に配備
昭和33年		
4月	消防団の再編成	消防団の改組改編を行い、団員定数を300名、水防員の定数を195名
10月	職員定数の改正 消防署車両	消防職員の定数を改正し、22名に増員 消防ポンプ自動車(ウイリスジープBHB1級)を購入し、消防署に配備
昭和34年		
2月	消防表彰受章	優良消防団として日本消防協会長から表彰、表彰旗を授与
昭和36年		
1月	職員定数の改正	職員定数を改正し、27名に増員
昭和37年		
9月	消防団車両	消防ポンプ自動車(三菱・ジュピターT11G1級)を購入し、第4分団(持田地区)に配備
10月	職員の増員	消防職員31名

11月	消防団車両	三輪自動車ポンプを購入し、第7分団(荒木地区)及び第9分団(北河原地区)に配備
昭和38年		
4月	消防署庁舎の移転	消防庁舎(消防本部・署)を大字長野3755番地に移転・新築し、業務を開始
6月	消防長就任	第3代消防長に吉羽光男氏
	職員の増員	消防職員34名
7月	救急業務	行田市救急業務に関する規則及び施行細則を制定し、救急業務を開始
10月	消防団車両	消防ポンプ自動車(三菱・ジュピターT11GAF1級)を購入し、第6分団(長野地区)に配備
昭和39年		
1月	消防団車両	消防ポンプ自動車(ニッサン・ジュニアF40B1級)を購入し、第8分団(須加地区)に配備
7月	〃	消防ポンプ自動車(ニッサン・ジュニアF40B1級)を購入し、第14分団第1部(下須戸地区)に配備
9月	〃	消防ポンプ自動車(ニッサン・ジュニアF40B1級)を購入し、第10分団第1部(埼玉地区)に配備
昭和40年		
1月	消防団車両	消防ポンプ自動車(ニッサンFS680A2級)を購入し、第1分団(行田地区)に配備
	〃	消防ポンプ自動車(ニッサン・ジュニアF40B1級)を購入し、団本部消防隊に配備
3月	消防表彰受章	消防力の拡充強化について優秀と認められ、消防庁長官から表彰旗を授与
8月	救急車両	救急自動車(トヨタFS45V)を購入し、消防署に配備
11月	職員の増員	消防職員36名
昭和41年		
9月	消防団車両	可搬式小型動力ポンプ積載車(ダットサン・キャブライトGA221、トーハツB2級45HP)各2台を購入し、第10分団3部(野地区)及び第14分団3部(真名板地区)に配備
昭和42年		
2月	消防団車両	可搬式小型動力ポンプ積載車(ダットサン・キャブライトGA221、トーハツB2級45HP)を購入し、第10分団2部(渡柳地区)に配備
10月	〃	可搬式小型動力ポンプ積載車(ダットサン・キャブライトGA221、トーハツB2級45HP)各2台を購入し、第13分団(下忍地区)に配備
	〃	消防ポンプ自動車(ニッサン・ジュニアF41B1級)を購入し、第7分団(荒木地区)に配備
	消防署車両	指令車(ダットサン・ブルーバード)を利根産業(株)から寄贈され、消防本部に配備
昭和43年		
11月	消防長就任	消防長事務取扱として行田市助役小林三郎氏
昭和44年		
2月	消防署車両	化学消防ポンプ自動車(ニッサンFS681)を購入し、消防署に配備
5月	消防長就任	第4代消防長に山口治郎氏
12月	消防団車両	消防ポンプ自動車(ニッサンFR40)を購入し、第5分団(谷郷地区)に配備
昭和45年		
1月	消防団庁舎	第3分団庁舎を本丸1番1号に建設
3月	〃	第1分団庁舎を行田47番地に建設
8月	消防操法大会	第6回埼玉県消防操法大会が上尾運動公園において開催され、第3分団が代表出場
9月	消防団器具置場	第14分団第2部(若小玉地区)の器具置場を藤原町2丁目26番地3に建設

昭和46年	12月	消防団車両 職員の増員	消防ポンプ自動車(ニッサン・ジュニアF41B1級)を購入し、第14分団第2部(若小玉地区)に配備 消防職員42名
	3月	消防署車両	水槽付消防ポンプ自動車(いすゞTXG20A1級、2,500ℓ)を購入し、消防署に配備
	4月	消防署庁舎	消防署西分署庁舎を大字持田6107番地に建設、業務を開始
昭和47年	12月	消防団車両 消防団庁舎	消防ポンプ自動車(ニッサンF40型B1級)を購入し、第11分団(星宮地区)に配備 第2分団庁舎を佐間1丁目10番4号に建設
	2月	消防団器具置場	第12分団器具置場を大字棚田1354-1番地に建設
	4月	救急車両 消防団の再編成	救急車(ニッサン・エコマイクロ改造型3B)を購入し、本署に配備 行田市消防団の改組・改編を行い、団本部機動消防隊、中央消防隊、東・西・南・北部方面消防隊とし、1本部・11ヶ分団、定員を244名、水防員を140名
昭和48年	5月	消防団車両 消防署車両	警備車(ニッサン・キャブオールL240改)を購入し、団本部第1警備隊に配備 水槽付消防ポンプ自動車(いすゞTXG10型改A1級1,600ℓ)を日本損害保険協会から寄贈され、西分署に配備
	6月	〃	指令車(ニッサン・ローレルC30改)を行田市消防協会及び行田市危険物安全協会から寄贈され、消防署本署に配備
	9月	消防団庁舎	北部第8分団庁舎を大字荒木2092番地に建設
	10月	消防署車両	消防ポンプ自動車(ニッサン・パトロールFH60型A2級BD1)を購入し、消防署本署に配備
	12月	消防団庁舎	北部第10分団庁舎を大字北河原1536番地に建設
	1月	職員の増員	消防職員52名
	7月	消防団長就任	第4代消防団長に鈴木金治郎氏
	9月	消防団庁舎 〃	北部第9分団庁舎を大字須加4621番地に建設 東部第11分団庁舎を大字真名板1260番地に建設
	12月	消防署車両 〃	消防ポンプ自動車(BD-II型)を購入し、消防署西分署に配備 水槽付消防ポンプ自動車(ニッサンFS780型A2級1,500ℓ)を購入し、消防署南分署用として配備
	昭和49年	6月	消防署庁舎
7月		〃	南分署敷地内に救助訓練塔を建設
10月		職員の増員 消防団庁舎	消防職員53名 団本部庁舎を本丸1番1号に建設
12月		消防団車両	消防ポンプ自動車(ニッサンFS780型A2級)を購入し、機動第1分団(長野地区)に配備
昭和50年	3月	消防団庁舎	西部警備隊庁舎を城西4丁目3番4号に建設
	4月	消防団車両	小型動力ポンプ付積載車(ダットサン・キャブライトB2級トローハツ)を購入し、北部警備隊に配備
	5月	職員の増員 消防署車両	消防職員54名 2B型救急車(ニッサン・キャラバン)を日本船舶協会から寄贈され、消防署南分署に配備
	10月	消防団車両	消防ポンプ自動車(ニッサンFHN60型A2級BD1)を購入し、南部第6分団(下忍

		地区)に配備
	12月	消防団車両
		指令車(ダットサン・ブルーバード)を松本正俊氏から寄贈され、団本部に配備
昭和51年		消防署車両
		はしご付消防ポンプ自動車(32m級)を購入し、消防署本署に配備
	5月	救急車両
		2B型救急車(ニッサン・キャラバン)を住友生命相互保険会社から寄贈され、消防署西分署に配備
	10月	消防団車両
		消防ポンプ自動車(ニッサン・パトロールFHN)を購入し、北部第10分団に配備
	11月	〃
		可搬動力ポンプ(シバウラ3B級)を購入し、西部警備隊(持田地区)に配備
	12月	消防団庁舎
昭和52年		団本部第2警備隊庁舎を中央11番6号に建設
	4月	職員の増員
昭和53年		消防職員60名
	1月	消防署車両
		指令2号車(ニッサン・スカイライン)を小林清春氏から寄贈され、消防本部に配備
	5月	消防団庁舎
		機動第1分団庁舎を桜町3丁目7番36号に建設
	9月	〃
		東部警備隊庁舎を大字下須戸2549番地に建設
		〃
		南部第7分団庁舎を大字野894番地に建設
		消防団車両
		小型動力ポンプ付積載車(トヨタH-RHシバウラB3級)を購入し、北部警備隊(斎条地区)に配備
		消防署車両
		消防ポンプ自動車(ニッサン・パトロールBD-I型)を購入し、消防署南分署に配備
	10月	消防団車両
		消防ポンプ自動車(いすゞTXD1、BD II型)を購入し、中央第2分団(佐間地区)に配備
	11月	職員の増員
		消防職員63名
	12月	消防団庁舎
昭和54年		西部第4分団庁舎を大字皿尾400番地に建設
	2月	街角消火器
		街角消火器(粉末10型)を市街地区域内に140本設置
	7月	消防長就任
		第5代消防長に満井公夫氏
	11月	消防団車両
		消防ポンプ自動車(ニッサンFH60型BD-I型)を購入し、南部第7分団(埼玉地区)に配備
	12月	〃
		小型動力ポンプ付積載車(ニッサン・キャプスター)2台を購入し、それぞれ南部警備隊(埼玉地区)及び西部警備隊(持田地区)に配備
昭和55年		
	2月	街角消火器
		街角消火器(粉末10型)を市街地区域内に200本増設
	3月	式典
		消防本部発足30周年を記念し、水城公園及び中央公民館において「消防祭」を実施
	12月	消防団車両
		消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、中央1分団(行田地区)に配備
		〃
		消防ポンプ自動車(BD-I型)を購入し、北部第9分団(須加地区)に配備
昭和56年		
	2月	街角消火器
		街角消火器(粉末10型)を市街地及び密集地区域内に100本増設
	9月	職員の増員
		消防職員68名
	10月	街角消火器
		街角消火器(粉末10型)を市街地及び密集地区域内に100本増設
	11月	消防団車両
		消防ポンプ自動車(BD-I型)を購入し、西部第5分団(太井地区)に配備
		消防署車両
		消防ポンプ自動車(BD-I型)を購入し、消防署北分署として配備
昭和57年		
	1月	式典
		昭和4年から運用してきた「時警塔」の解体に伴い、記念式典を実施
	3月	職員の増員
		消防職員72名

4月	消防署庁舎	消防署北分署庁舎を大字齊条1132番地の1に建設し、業務を開始
10月	街角消火器	街角消火器(粉末10型)を密集地区域内に100本増設
12月	消防署車両	水槽付消防ポンプ自動車(水-I B型)を購入し、消防署北分署に配備
昭和58年		
6月	救急車両	救急自動車(2B型)を購入し、消防署本署に配備
10月	街角消火器	街角消火器(粉末10型)を密集地区域内に100本増設
昭和59年		
3月	消防署庁舎	消防庁舎(消防本部・消防署本署)を大字長野4389番地の1に新設・移転し業務を開始
	消防署車両	査察車(ホンダ軽自動車)を行田市防火安全協会から寄贈され、消防本部に配備
6月	〃	ボート積載車(クレーン付)を購入し、消防署北分署に配備
10月	街角消火器	街角消火器(粉末10型)を密集地区域内に30本増設
昭和60年		
3月	消防署車両	消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、消防署本署に配備
	職員の増員	消防職員80名
4月	消防長就任	第6代消防長に栗原久治氏
10月	街角消火器	街角消火器(粉末10型)を市街地及び密集地に15本増設
11月	消防団庁舎	東部第11分団庁舎を大字真名板1190番地の1に新築・移転
	消防団車両	消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、東部第11分団(真名板地区)に配備
昭和61年		
4月	消防本部機構改革	消防本部に課制を敷き、総務課及び予防課の2課
9月	消防団車両	小型動力ポンプ付積載車(ニッサン・アトラスL-BF22改)を購入し、団本部第2警備隊(中央地区)に配備
10月	幼年消防クラブ	太井保育園及び太田保育園に幼年消防クラブが発足
	街角消火器	街角消火器(粉末10型)を市街地及び密集地に5本増設
11月	消防団車両	消防ポンプ自動車(いすゞP-NKR58EN改)を購入し、機動第2分団(若小玉地区)に配備
12月	消防署車両	指令1号車(トヨタ・マークII)を購入し、消防本部に配備
昭和62年		
3月	救急車両	救急自動車(ニッサン・キャラバンFHG24型2B)を日本損害保険協会から寄贈され、消防署北分署に配備
	職員の増員	消防職員81名
4月	消防団長就任	第5代消防団長に牧野弥蔵氏
9月	消防団車両	小型動力ポンプ付積載車(ニッサン・アトラスL-BF22改)を購入し、団本部第1警備隊(忍地区)に配備
昭和63年		
3月	消防団車両	消防ポンプ自動車(いすゞ-NKR58E2N改)を購入し、西部第4分団(星宮地区)に配備
	職員の増員	消防職員82名
	街角消火器	街角消火器(粉末10型)を密集地区域内に5本増設
10月	消防署車両	消防ポンプ自動車(いすゞ-NKR58E2N)を購入し、消防署西分署に配備
		指令2号車(トヨタ・マークII)を購入し、消防本部に配備
12月	消防署車両	救急自動車(トヨタ・ハイエース2B型)を埼玉トヨタ(株)から寄贈され、消防署本署に
	救急車両	配備
平成 元年		
3月	消防署車両	救助工作車II型を購入し、消防署本署に配備

平成 2年	12月	街角消火器 職員の異動 消防署車両	街角消火器(粉末10型)を密集地区域内に8本増設 消防職員81名 化学消防自動車 I 型を購入し、消防署本署に配備
	2月	救急車両	救急自動車(2B型)を購入し、消防署西分署に配備
	3月	消防団車両 街角消火器	消防ポンプ自動車(CD-I 型)を購入し、機動第1分団(長野地区)に配備 街角消火器(粉末10型)を密集地区域内に7本増設
平成 3年	4月	消防長就任 職員の増員	第7代消防長に小山実也氏 消防職員83名
	11月	式典	消防本部発足40周年記念式典を実施
	3月	消防署車両 消防団車両 街角消火器	水槽付消防ポンプ自動車(水-1B)を購入し、消防署西分署に配備 消防ポンプ自動車(CD-I 型)を購入し、南部第6分団(下忍地区)に配備 街角消火器(粉末10型)を密集地区域内に5本増設し、設置総数815本
平成 4年	4月	消防庁舎移転	消防署西分署庁舎を大字持田876番地の1に移転・新築し業務を開始
	9月	消防署車両 職員の異動	査察2号車及び広報1号車を購入し、消防本部に配備 消防職員82名
	11月	消防団車両	消防ポンプ自動車(CD-I 型)を購入し、北部第10分団(北河原地区)に配備
	3月	消防署車両 消防団車両	消防ポンプ自動車(CD-I 型)を購入し、消防署南分署に配備 小型動力ポンプ付積載車(トヨタ・トヨエースT-YY61改)を北部警備隊(斎条地区)に配備
	11月	〃	消防ポンプ自動車(CD-I 型)を購入し、中央第3分団(忍地区)に配備
平成 5年	1月	消防署車両	消防ポンプ自動車(CD-I 型)を購入し、消防署西分署に配備
	4月	消防長就任 消防団長就任	第8代消防長に柿沼安治氏 第6代消防団長に大河原文雄氏
平成 6年	8月	一日消防士体験	小学校高学年の児童を対象に夏休み体験学習として「一日消防士」を実施
	10月	消防団車両	消防ポンプ自動車(CD-I 型)を購入し、中央第2分団(佐間地区)に配備
	11月	消防署車両	水槽付消防ポンプ自動車(水-1B)を購入し、消防署北分署に配備
	1月	消防音楽隊	「消防職・団員音楽隊」を結成
	3月	自衛消防庁舎	荒木自衛消防団庁舎を大字荒木3574番地の1に移転、新築
	4月	職員の増員 協力団体	消防職員84名 行田市危険物安全協会を行田市防火安全協会に改組
平成 7年	6月	消防団車両	小型動力ポンプ付積載車(トヨタ・トヨエース)2台を購入し、それぞれ西部警備隊(持田地区)及び南部警備隊(埼玉地区)に配備
	8月	一日消防士体験	第2回「一日消防士」を実施
		消防署車両	ボート積載車(三菱・キャンター)クレーン付を購入し、消防署本署に配備
	10月	消防団車両	消防ポンプ自動車(CD-I 型)を購入し、南部第7分団(野地区)に配備
	11月	消防署車両	水槽付消防ポンプ自動車(水-1B)を購入し、消防署南分署に配備
	12月	救急車両	高規格救急自動車(トヨタ・ハイメディック)を購入し、消防署本署に配備
	1月	職員派遣	阪神・淡路大震災が発生し、消防職員を被災地へ応援のため派遣、3名
2月	訓練	職員非常招集訓練を実施し、災害発生直後の初動及び応急活動の体制確立を目指す	

平成 8年	3月	パンフレット アンケート調査	保存版パンフレット「わが家の地震対策」を作成し、市内の全世帯に配布 熊谷地方気象台で震度4を観測したため、即日「地震に対するアンケート」を実施 し、市民の意識調査を実施	
	4月	防災啓発PR 職員の増員	市内30ヶ所の消防井戸と公共施設20ヶ所に「防災啓発プレート」を設置 消防職員85名	
		夜間巡視	毎週火曜日を「火災予防PRデー」として夜間の警鐘巡視を開始	
	6月	職員定数改正	消防職員、条例定数102名	
	7月	職員の異動	消防職員84名	
	8月	一日消防士体験	第3回「一日消防士」を実施	
	10月	普通救命講習	応急手当の普及及び啓発のため、普通救命講習会を開始	
	11月	式典	消防本部発足45周年記念式典を実施	
		消防署資機材 消防団車両	サリンなどの化学物質災害時に対応する「化学防護服」を購入 消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、北部第9分団(須加地区)に配備	
	12月	消防署車両	指令車(トヨタ・クラウン)を行田市から移管され、消防本部に配備した。	
	平成 9年	1月	消防署車両	事務連絡車(スバル・ヴィヴィオ)を川島幸子さんから寄贈され、消防本部に配備
		2月	訓練	地震災害を想定した非常招集訓練を実施、この訓練は消防職員を始め、消防団 員、水防員及び自衛消防団員が参加し総勢400名余
4月		消防署車両	梯子付消防ポンプ自動車(35m級)を購入し、消防署本署に配備	
		消防団長就任 職員の増員	第7代消防団長に大須賀伊司郎氏 消防職員91名	
5月		消防旗 彩の国レスキュー	消防本部旗を西田芳郎氏から寄贈 埼玉県独自の広域災害活動隊である「彩の国レスキュー隊」が発足し、消防、救助 及び救急部隊として登録	
8月		一日消防士体験	第4回「一日消防士」を実施	
9月		施設紹介スライド	来庁者に向けた施設紹介スライド「消防署へようこそ…」を製作	
10月		消防委員会	行田市消防職員委員会が発足	
		屋内消火栓操法 大会	行田市内事業所対抗屋内消火栓操法大会の開催が第10回となり、さらに実践に 即した方法として放水を実施	
11月		消防署車両	輸送用車両として中型バス(37人乗り)を行田市から移管され、消防署北分署に 配備	
		消防団車両	消防ポンプ自動車(CD-I型)2台を購入し、中央第1分団及び西部第5分団に 配備	
12月		// 消防署車両	小型動力ポンプ付積載車を購入し、東部警備隊に配備 消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、消防署本署に配備	
平成 9年	1月	救急車両 訓練	救急自動車(2B型)を購入し、消防署北分署に配備 地震災害を想定した非常招集訓練を実施し、消防職・団員211名の参加	
	2月	職員派遣	日本海におけるロシア船籍タンカー「ナホトカ号」重油流出事故に際し、行田市防 火安全協会及び埼玉県トラック協会の協力を得て、被災地(石川県松任 市)に重油回収用ドラム缶112本を贈り、回収の支援に職員を派遣	
	3月	幼年消防クラブ	春季火災予防運動等として、幼年消防クラブによる該当キャンペーンを実施	
	4月	職員の増員	消防職員94名	
	8月	一日消防士体験	第5回「一日消防士」を実施	
	9月	訓練	第18回七都県市合同防災訓練(埼玉会場)を行田市都市計画事業長野土地区画整 理事業地内において実施	

平成10年	10月	消防団車両 消防署車両 "	消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、北部第8分団(荒木地区)に配備 指令車(ニッサン・セドリック)を行田市から移管され、消防本部に配備 査察1号車を購入し、消防本部に配備	
	12月	レディース隊	女性消防ボランティア組織として、「浮き城のまち行田・消防ボランティアレディース隊」が発足	
	4月	職員の増員 職員派遣	女性消防吏員を2名採用し、95名 埼玉県防災航空隊に職員を1名派遣	
	6月	消防団庁舎	団本部指揮班・中央第3分団庁舎を本丸1番1号に新築	
		消防署車両	自治体消防50周年記念にあたり、事務連絡車(スバル・サンバー)を行田市 防火安全協会から寄贈され、消防本部に配備	
	8月	一日消防士体験	第6回「一日消防士」を実施	
	10月	職員の異動 レディース隊	消防職員94名 「浮き城のまち、消防ボランティアレディース隊の集い」として、全隊員対象の研修 会を開催	
	11月	消防音楽隊 救急車両	埼玉県下消防音楽隊演奏会を行田産業文化会館ホールで実施 救急自動車(2B型)を購入し、消防署南分署に配備	
	平成11年	3月	消防施設	消防緊急通信指令施設を更新
		4月	消防長就任 職員派遣 職員の異動	第9代消防長に大矢弘氏 埼玉県環境生活部消防防災課に職員を1名派遣 消防職員92名
8月		一日消防士体験	市制施行50周年記念行事の一環として、市環境衛生課と合同で“環境と安全”を テーマに「環境フェスティバル&一日消防士」を実施	
10月		消防署車両	消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、消防署西分署に配備	
11月		レディース隊	「第2回浮き城のまち行田・消防ボランティアレディース隊の集い」を実施	
平成12年	2月	救急車両	高規格救急自動車(トヨタ・ハイメディック)を購入し、消防署西分署に配備	
	6月	消防団車両	消防ポンプ自動車(CD-I型)2台を購入し、機動第2分団(太田地区)及び東部 第11分団(真名板地区)に配備	
	8月	一日消防士体験	消防本部発足50周年記念行事の一環として、第8回「一日消防士」を実施	
	11月	式典 消防署車両	消防本部発足50周年記念式典を実施 指令1号車(マツダ・カペラワゴン)を購入し、消防本部に配備	
平成13年	12月	レディース隊	「第3回浮き城のまち行田・消防ボランティアレディース隊の集い」を実施	
	4月	消防長就任 消防団長就任	第10代消防長に吉岡敏明氏 第8代消防団長に田代昌克氏	
	8月	一日消防士体験	第9回「一日消防士」を実施	
	9月	消防団車両	小型動力ポンプ付積載車2台を購入し、団本部第1警備隊(忍地区)及び団本部第 2警備隊(中央地区)に配備	
	12月	消防署車両 "	事務連絡車(トヨタ・カローラフィルダー)を購入し、消防本部に配置 消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、消防署南分署に配備	
レディース隊		「第4回浮き城のまち行田・消防ボランティアレディース隊の集い」を実施		
平成14年	8月	一日消防士体験	第10回「一日消防士」を実施	
	11月	消防署車両	消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、消防署北分署に配備	

平成15年	12月	消防団車両	消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、西部第4分団(星宮地区)に配備
	2月	レディース隊	「第5回浮き城のまち行田・消防ボランティアレディース隊の集い」を実施
	3月	消防署車両	査察2号車及び広報1号車を購入し、消防本部に配備
	8月	一日消防士体験	第11回「一日消防士」を実施
	9月	消防署車両	水難救助艇2艇及びボート積載車(日野デュトロ)を購入し、消防署本署に配備
平成16年	2月	レディース隊	「浮き城のまち行田・消防ボランティアレディース隊防災体験学習」を実施
	8月	一日消防士体験	第12回「一日消防士」を実施
	11月	式典	市制施行55周年記念行事の一環として「消防フェア」を実施し、消防職・団員音楽隊発足10周年記念演奏会を開催
平成17年	3月	消防署車両	救助工作車II型を購入し、消防署本署に配備
	4月	職員派遣	埼玉県防災航空隊に職員を1名派遣
	8月	一日消防士体験	第13回「一日消防士」を実施
	9月	消防団車両	指揮広報車を購入し、団本部指揮班に配備
	11月	〃	消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、機動第1分団(長野地区)に配備
平成18年	1月	消防団の編成	南河原村が行田市に合併し、この区域の消防団を北部第12分団と命名し、団員定数を260名、水防員160名
	2月	救急車両	高規格救急自動車(トヨタ・ハイメディック)を購入し、消防署本署に配備
	4月	消防長就任	第11代消防長に工藤正司氏
		消防署車両	行田市防火安全協会創立50周年記念にあたり、事務連絡車(スズキ・スイフト)を行田市防火安全協会から寄贈され、消防本部に配備
	8月	一日消防士体験	第14回「一日消防士」を実施
	10月	消防長就任	第12代消防長に今村宗雄氏
平成19年	2月	消防署車両	消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、消防署本署に配備
		救急車両	高規格救急自動車(トヨタ・ハイメディック)を購入し、消防署北分署に配備
		消防団車両	消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、南部第6分団(下忍地区)に配備
		〃	消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、南部第7分団(野地区)に配備
	3月	消防長就任	第13代消防長に大山隆氏
		消防署車両	水槽付消防ポンプ自動車(水-1B)を購入し、消防署西分署に配備
		街角消火器	街角消火器(粉末10型)を南河原地区に増設し、設置総数1023本
	4月	消防団長就任	第9代消防団長に若山武氏
		職員の異動	消防職員94名
	8月	一日消防士体験	第15回「一日消防士」を実施
	11月	合同訓練	ドクターヘリ合同訓練を実施
		〃	埼玉県防災航空隊と合同で夜間離発着訓練を実施
平成20年	1月	消防団車両	小型動力ポンプ付積載車(ニッサン・アトラス改)を購入し、北部警備隊(斎条地区)に配備
	2月	消防団車両	消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、北部第10分団(北河原地区)に配備
	3月	消防署車両	化学消防自動車II型を購入し、消防署本署に配備
		消防団庁舎	北部第9分団庁舎を須加4621番地に新築
	8月	一日消防士体験	第16回「一日消防士」を実施

11月	消防団車両 合同訓練	消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、中央3分団(忍地区)に配備 埼玉県防災航空隊と合同で夜間離発着訓練を実施
12月	〃	〃
平成21年		
3月	消防署車両	水槽付消防ポンプ自動車(水-I B)を購入し、消防署北分署に配備
4月	消防長就任	第14代消防長に江森保氏
9月	消防団車両	消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、中央2分団(佐間地区)に配備
11月	救急車両 合同訓練	高規格救急自動車(トヨタ・ハイメディック)を購入し、消防署南分署に配備 早朝夜間の離着陸訓練を埼玉県防災航空隊・埼玉県中央広域消防本部・加須地区消防組合本部・羽生市消防本部と合同で実施
12月	消防署車両	事務連絡車としてハイブリットシステム付自動車(トヨタ・プリウス)を購入し、消防署本署に配備
平成22年		
3月	消防団車両	救助資機材搭載型車両(ニッサン・アトラス改)が総務省消防庁より貸与され、西部警備隊(持田地区)に配備
	消防署車両	大型水槽付消防ポンプ自動車を購入し、消防署本署に配備
	消防団庁舎	北部第8分団庁舎を荒木2092番地に新築
4月	職員の異動	消防職員100名
8月	一日消防士体験	第17回「一日消防士」を実施
平成23年		
2月	救急車両	高規格救急自動車(トヨタ・ハイメディック)を購入し、消防署西分署に配備
	消防団庁舎	南部警備隊庁舎を埼玉334番地4に移転、新築
3月	消防団車両	消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、北部第9分団(須加地区)に配備
	〃	小型動力ポンプ付積載車(ニッサン・アトラス改)を購入し、南部警備隊(埼玉地区)に配備
	自衛消防庁舎 職員派遣	渡柳・利田自衛消防団庁舎を渡柳444番地3に移転、新築 東日本大震災が発生し、消防職員を被災地へ緊急消防援助隊として派遣、9期18名 宮城県石巻市に対し、行田市職員及び市民の災害復興活動支援ボランティアを募り、消防職員が4回22名参加
4月	消防長就任 消防団長就任 職員の異動	第15代消防長に宮崎薫氏 第10代消防団長に山岸敏秀氏 消防職員96名
8月	一日消防士体験	第18回「一日消防士」を実施
10月	熊谷市・行田市 消防通信指令事務 協議会発足	熊谷市との消防通信指令業務共同運用に伴い、協議会発足 熊谷市消防本部内共同指令センターに職員6名を派遣し、共同業務を開始
12月	合同訓練	埼玉県防災航空隊と合同で夜間離発着訓練を実施
平成24年		
2月	訓練	平成23年度高圧ガス防災訓練を、総合運動公園駐車場で実施
	消防団車両	消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、北部第12分団(南河原地区)に配備
3月	消防団庁舎	北部警備隊庁舎を斎条3172番地に移転、新築
4月	消防長就任 職員の異動 職員派遣	第16代消防長に杉山晴彦氏 消防職員99名 (財)日本消防協会に職員を1名派遣 埼玉県防災航空隊に職員を1名派遣

平成25年	8月	一日消防士体験	第19回「一日消防士」を実施
	11月	消防団車両	消防ポンプ自動車(CD-I型)2台を購入し、中央第1分団(行田地区)及び西部第5分団(押上町地区)に配備 小型動力ポンプ付積載車を購入し、東部警備隊(下須戸地区)に配備
平成26年	12月	合同訓練	埼玉県防災航空隊と合同で夜間離発着訓練を実施
	3月	消防団車両	消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、北部第8分団(荒木地区)に配備
平成27年	4月	職員の異動 団員定数の改正	消防職員100名 女性消防団員10名を団本部附隊員に配属し、消防団員の定数を270名に改正
	8月	一日消防士体験	第20回「一日消防士」を実施
平成28年	9月	消防施設	消防本部庁舎敷地内に危険物自家給油取扱所を設置
	12月	合同訓練	埼玉県防災航空隊と合同で夜間離発着訓練を実施
平成29年	2月	消防署車両 消防表彰受賞	水槽付消防ポンプ自動車(水-I B)を購入し、消防署南分署に配備 消防力の充実強化について優秀と認められ、総務省消防庁長官から「消防団等地域活動表彰」を受賞
	3月	消防署車両 消防施設 消防団庁舎	査察1号車を購入し、消防署本署に配備 消防本部敷地内に車庫兼総合訓練棟を新築 西部警備隊庁舎を城西4丁目3番2号に新築
平成30年	4月	職員の異動	消防職員99名
	6月	消防署車両	事務連絡車(ダイハツ・ハイゼット)を購入し、消防本部に配備
平成31年	8月	一日消防士体験	第21回「一日消防士」を実施
	12月	消防庁舎及び車両	消防力適正配置調査を実施
平成32年	2月	消防庁舎	南分署耐震補強工事
	3月	消防署車両	災害対応特殊消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、消防署西分署に配備
平成33年	4月	消防団長就任 職員の異動	第11代消防団長に高野英男氏 消防職員103名(再任用職員1名を含む)
	8月	一日消防士体験	第22回「一日消防士」を実施
平成34年	2月	消防署車両	屈折はしご付消防自動車を購入し、消防署本署に配備
	4月	職員の異動 職員派遣 消防団組織	消防職員102名(再任用職員1名を含む) (公財)日本消防協会に職員を1名派遣 消防団組織再編に伴い、副分団長階級の創設、団本部第1警備隊と第2警備隊を統合し中央警備隊に改称、6方面隊運用から5方面隊へ整理統合、水防員を廃止し水防活動に特化した機能別消防団員任用
平成35年	5月	消防署車両	行田市防火安全協会創立60周年記念にあたり、事務連絡車(ホンダ・ステップワゴン)を行田市防火安全協会から寄贈され、消防本部に配備
	8月	一日消防士体験	第23回「一日消防士」を実施
平成36年	2月	消防車車両	災害対応特殊救急自動車(トヨタ・ハイメディック)を購入し、本署に配備
	3月	AED設置	市内コンビニエンスストアにAEDを設置
平成37年	4月	職員の異動	消防職員103名(再任用職員2名を含む)
	8月	一日消防士体験	第24回「一日消防士」を実施
平成38年	9月	消防署車両	査察2号車(ニッサン・NV200)を購入し、本署に配備
	11月	〃	指揮車(トヨタ・ハイエース)を購入し、本署に配備

平成30年		
2月	消防署車両	消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、南分署に配備
	〃	高規格救急自動車(トヨタ・ハイメディック)を購入し、北分署に配備
4月	職員派遣	埼玉県消防学校救急救命士養成課程に職員を1名派遣
	職員異動	消防職員103名(再任用職員3名を含む)
8月	一日消防士体験	第25回「一日消防士」を実施
平成31年		
3月	消防団車両	消防ポンプ自動車(CD-I型)2台を購入し、機動第2分団(藤原町地内)及び東部11分団(真名板地区)に配備
	熊谷市・行田市 消防通信指令事務 協議会	熊谷市・行田市消防指令センター高機能消防指令システム機器更新
4月	消防長就任	第17代消防長に須永和宏氏
	職員異動	消防職員103名(再任用職員2名を含む)
	消防団長就任	第12代消防団長に岩田善道氏
	消防団組織	消防団組織再編成を行い甲斐姫分団新設
5月		元号が「令和」に改められる
8月	一日消防士体験	第26回「一日消防士」を実施
令和2年		
3月	消防署車両	消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、北分署に配備
4月	職員異動	消防職員105名(再任用職員4名を含む)
令和3年		
2月	消防団車両	消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、西部第4分団(星宮地区)に配備
3月		小型動力ポンプ付積載車を購入し、中央警備隊(行田地区)に配備
	消防署車両	高規格救急自動車(トヨタ・ハイメディック)を購入し、南分署に配備
4月	消防長就任	第18代消防長に木村昌明氏
	職員異動	消防職員106名(再任用職員4名を含む)
	消防団長就任	第13代消防団長に戸ヶ崎武氏
	職員派遣	埼玉県防災航空隊に職員を1名派遣
令和4年		
3月	消防署車両	高規格救急自動車(トヨタ・ハイメディック)を購入し、西分署に配備
4月	職員異動	消防職員102名(再任用職員3名を含む)
	職員派遣	公益財団法人日本消防協会に職員を1名派遣
10月	消防フェア	「消防フェア」を実施
	職員異動	「行田市消防署再編計画」に基づき南分署を試行的閉鎖、職員再配置
令和5年		
3月	消防団車両	消防ポンプ自動車(CD-I型)を購入し、機動第1分団(長野地区)に配備
4月	消防長就任	第19代消防長に吉澤宏氏
	職員異動	南分署整理統合による出動体制強化、新体制(1本部1署2分署)の運用開始 職員107名(再任用職員5名を含む)
	消防団長就任	第14代消防団長に神田利治氏
5月	消防署車両	ボート積載車を購入し、本署に配備
6月	職員定数改正	消防職員、条例定数124名
8月	一日消防士体験	令和5年度「一日消防士」を実施
11月	消防フェア	令和5年度行田市防災訓練会場で同時開催

令和6年		
3月	消防署車両	災害対応特殊化学消防ポンプ自動車Ⅱ型を購入し、本署に配備
4月	職員異動	消防職員109名(再任用職員4名を含む)
	職員派遣	公益財団法人埼玉県消防協会に職員を1名派遣
7月	消防操法大会	第34回埼玉県消防操法大会が埼玉県消防学校において開催され、行田市消防団がポンプ車の部で出場し初優勝する
8月	一日消防士体験	令和6年度「一日消防士」を実施
10月	全国消防操法大会	第30回全国消防操法大会が宮城県総合運動公園グランディ・21で開催され、ポンプ車の部で出場し敢闘賞を受賞する
令和7年		
2月	職員派遣	岩手県大船渡市における林野火災に、緊急消防援助隊として4期16名を派遣
	AED設置	市内11か所の屋外にAEDを設置
3月	消防署車両	救助工作車Ⅱ型を購入し、本署に配備
4月	職員異動	消防職員108名(再任用職員3名を含む)
	消防団長就任	第15代消防団長に長谷川雅敏氏